

令和6年度 第1回四国森林管理局国有林材供給調整検討委員会【議事概要】

1 日時及び場所

令和6年6月24日（月）13時00分～15時00分

四国森林管理局 研修室（対面 Web 併用）

2 議題

- (1) 管内における木材需給、価格動向等について
- (2) 各分野における現状や今後の見通しについて
- (3) 木材需給動向を踏まえた国有林材の供給調整について
- (4) 意見交換
- (5) その他

3 議事概要

【委員会の検討結果】

国産材製品については、円安による建築資材の高騰で建築費が上昇し、住宅着工戸数の減少が続く中、構造材を中心に動きが停滞しており、製材工場では出荷量の減少や価格の値下げなど厳しさを増している。

このような中、丸太の需要においては、スギ材は製品の荷動きを反映し引き合いが弱く価格も低迷が続き、ヒノキ材についても、柱角、土台角の構造材原木を中心に引き合いが弱くなり価格は下落となった。今後は虫害等の時期的な要因もあり、出材が不安定となることが想定されるものの、総じて民有林からの出材がほぼ例年並みで推移している状況にある。

以上のことから、今後の急激な需給の不安定化を回避・抑制するため、国有林において予防的な措置として立木販売の搬出期間の延長を行うことが望ましい。また、今後の需要動向を見極めつつ、必要に応じ地域の実情に即した供給調整を検討していく。

【主な意見等】

○ 素材生産業

- ・ 原木の生産量は、1月以降は皆伐から間伐への移行がみられ、若干減少しているものの、例年ペースで生産されている。
木造住宅等の着工戸数が低迷する中でも、ヒノキ原木は一定の価格が維持できている状況。今後は虫害の時期でもあり、若干の価格低下が想定される。
- ・ 現場の生産活動に変化はなく、スギ・ヒノキともに4m材を主体とし出材されている状況にある。円安により製紙用チップが高騰し、国内需要が見込まれるが、建築用材の需要の見込みは暗い。

- ・ 作業道による集材作業システムが主体となっている中、地域によっては天候等の影響により作業道作設が遅れている現場があり、当該事業地においては出材量は2～3割程度少ない状況にある。また、人員不足も円滑な生産事業に影響している。

○ 原木市場・共販所

- ・ 入荷量については、例年よりやや多め。引き続きスギの引き合いは弱く、ヒノキについても引き合いが弱くなっている。価格についてもスギは値下がり傾向。ヒノキも製品の動きが悪くやや値下がり傾向にある。今後は梅雨や虫害の時期となり入荷量は不安定になると思われる。公共建築物や住宅着件数が減少しており、今後も流通の増加見込みが薄い。価格の動向は読みづらいが、スギ4mは悪い状況が続くと思われる。
- ・ 3～5月の入荷量は前年比、スギは高齢級大径材の出材もあり107%との増。ヒノキについては80%と大幅な減となった。今後は横這いで推移する見通し。価格については、スギは時期的に全体に弱含みで中でも、高齢級大径木は苦戦。ヒノキは、前年同期より高い水準であったが、4月以降の製品市況・荷動きの悪化により昨年近づきつつある。物価高騰による新設住宅着工戸数（特に持家）の減少で先行きが見えない中、市況は徐々に弱含む見通し。
- ・ 入荷量は少し減少。買い気は弱く、ヒノキについても、動きが悪くなってきている。価格はスギ・ヒノキともに弱い。一般住宅の価格が上昇しており、着工戸数増加は期待できないことから、現状の状態が続くと思われる。今回の電気料金の引き上げ、今後ガソリン価格も値上がりとなった場合、現状のままでは、製品素材の値下げで調整される恐れがある。
- ・ 時期的なことや雨の影響により5月中旬から出材が少なかった。また、荷動きの悪いことも出材に影響しており、今後原木価格が値下がりすれば、出材量も更に減少するのではないか。

○ 製材工場等

- ・ 原木調達・稼働状況については、ヒノキは高値安定でスギは平均ぐらい。住宅市場の落ち込みにより、製品は積極的に売れていないことから、製材の稼働状況も積極的でない。円安による建築資材の高騰により建築費が上昇。持家の新設着工戸数の減少が続いており、市場動向によっては更に悪化する可能性がある。
- ・ 原木調達は良好だが、単価は全国相場と比べると高水準。稼働状況は1～3月の製品の動きが鈍かったことから、製品の置き場もなくなり、4月中旬～5月末まで減産調整を行った。出荷については4～5月は若干回復感があったが、前持った注文の話は全くなく、都度注文による販売を行っており、製品在庫はかなり増加している。販売価格は下落傾向にある。住宅価格の高騰により着工戸数が減少しており先行は不透明であるが、着工戸数が増加した場合には円安の影響等もあり外材価格が上昇しているため、これの代替えとして国産材も売れだすのでは？

- ・ 製品出荷・価格については一般的には非常に悪い状況であると考えます。今後は物価等の値上げ、実質賃金の減少が続く限り荷動きは悪くなるのではないかと懸念しています。